

A tall, modern building with a dark grey, textured facade. The building features several large, rectangular windows of varying sizes, some of which are dark, suggesting they are either closed or the interior is dimly lit. The Pioneer logo, consisting of a colorful, stylized 'P' followed by the word 'PIONEER' in a bold, sans-serif font, is mounted on the upper left portion of the building's facade. The building is situated in an urban environment, with other buildings visible in the background.

 PIONEER

建築人

12

2017

大阪ホンマもん

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市の東部に位置する生野区に昭和初期のモダンな銭湯が利用され続けている。今回は「源ヶ橋温泉」を取り上げたい。

建物は昭和十二年（一九三七年）に木造二階建てで計画された。二階には庶民憧れのダンスホールやビアホールなどを設え華々しくオープンした。洒落たモダンな建物の屋根は茶褐色の釉薬瓦葺きで、タイル張りの外壁には丸窓のステンドグラスが組み入れられ、和洋折衷のデザインとされた。屋根の上には鯰鯨が対に並べられている。入口正面には自由の女神も対に配され、これは「入浴」Ⅱ「ニューヨーク」をかけたもの。当時は大変な人気で、商店街まで行列が出来たとされる。

近年、同じくダンスホールを備える銭湯として営業していた美草園温泉も惜しまれながら閉店。登録有形文化財指定を受けたこの銭湯の存在は益々もって貴重なものとなった。是非、ビルではなく昭和の銭湯建築らしいこの建物を大いに利用して頂きたい。



建築人

12
2017

目次

2	大阪ホンマもん
3	女性分科会三〇周年リレーエッセイ 出会い、そして学び、輝ける会として 竹田敦子 人とのつながり、広がり求めて 西野智子
4	インフォメーション・事業案内 動静レポート
6	Topics ひろば『今、自治体のアツイところ！』松原市 川村健二 松原市における新たなまちづくり
7	Gallery 建築作品紹介 京都女子大学 紫金寮 設計 日建設計 施工 西松建設
8	京都美術工芸大学 京都東山キャンパス 設計 大林組 施工 大林組
10	大光電機株式会社 技術研究所 設計 大林組 施工 大林組
17	JGRAN THE HONOR 下鴨糺の杜 設計 竹中工務店 施工 竹中工務店
18	記憶の建築 松隈 洋 日本ルーテル神学大学 一九六九年 村野藤吾が実現させた神の民の学舎
22	建築の射程 川幡祐子 ものづくりの街・大正区で長屋をシェアアトリエに再生 理事会報告 建築相談室から 編集後記

研修委員会の活動紹介

公益社団法人 大阪府建築士会
研修委員長 横田 友行



研修委員会には、研修分科会と制度推進分科会という二つの分科会があります。

研修分科会は、設計・設備・法令グループと構造・施工グループと二級・木造グループという三グループから成っており、それぞれのグループで講習会および見学会の企画を行なっています。講習会と見学会のテーマとしては、法改正に沿ったものや実践に即したものや最新技術に関するものと、それまでの講習会と見学会でのアンケートにおいて希望の多いテーマを取り上げるようにしています。年明けからは、「建築紛争における法的措置」、「中大規模木造」に関する講習会と、「こどもホスピス」見学会などを予定しています。今年四月から始まった省エネ適合性判定に備えた「建築物省エネ法・省エネ設計技術講習会」は六月と七月に開催しました。建築士会版監理技術者講習も既に六回開催し、あと三回開催する予定です。制度推進分科会は、CPD制度の普及活動を行なっています。今年度の定時総会からは、多くのCPD単位を取得された個人と社員教育に活用された企業、および多くのCPD認定講習会を開催されたプロバイダーを表彰しています。

今後とも皆様のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

女性分科会三〇周年リレーエッセイ

出会い、そして学び、輝ける会として

委員 竹田敦子

私は、普通高校を卒業してから銀行員として勤めた後、結婚をし、二人の子どもを育てておりましたが、夫の事業が工務店だった為、その手伝いをするため、何の縁も無かった建築の仕事に携わるようになりました。建築士会とは、四〇歳のときに二級建築士になったときからのお付き合いです。その頃は女性委員会の中にシルバライフ研究会という会があり、とても興味深く入会しました。しっかりと根を張って仕事されている建築士の皆さんと、一緒に活動できることは大変実り多く、多くを学ばせていただきました。今は女性分科会と名を変えておりますが、すばらしい学びの場であることは間違いなく、多くの方の入会を願っています。

人とのつながり、広がり求めて

委員 西野智子

勤めていた設計事務所から独立した時、情報や人とのつながりを求めて建築士会に入会しました。その当時、女性委員会の中で立ち上がったばかりの健康住宅研究会に参加し、人との出会いやイベントへの参加を通して、活動に関わるようになりましたが、出産をきっかけに休職状態になりました。育児中は夜の会議には出にくく優先順位も後回しになり、娘が小学生になる前から少しずつ活動を再開しました。

女性分科会はこのからも女性の出産・育児などの生活環境の変化の中で、仕事では得られない活動の場であり、今回の「けんちく女子会」で、更に広がれば良いと思います。

たちの住む地域や町を元気にする手法や考え
方などを、それぞれの立場から学び、考えます。
建築に携わっておられる方はもちろんのこと、日
頃、建築に触れることの無い方々にも、建築の
世界を身近に感じていただける絶好の機会です
ので、是非、お越し下さい。

主催 近畿建築士会協議会青年部会
日時 2月10日(土) 12:30～
会場 日本綿業倶楽部 綿業会館本館7階大会場
大阪市中央区備後町2-5-8

最寄駅 地下鉄御堂筋線「本町」駅または
地下鉄堺筋線「堺筋本町」駅

第一部 12:45～14:45
近畿あーきてくとVol.25
近畿2府4県の建築士会青年部による
活動のうち、特に皆様を知って頂き
たい事業をそれぞれ発表します。

第二部 15:25～17:45
建築家講演会 大島芳彦
テーマ リノベーションによる地域価値
の再生～人が主役の小さなまちづくり～

第三部 18:00～20:00
交流会
会場 綿業会館1階会員食堂

その他 綿業会館見学ツアー
※交流会参加者優先
A 11:40～12:00(定員35名)
B 14:55～15:15(定員35名)

参加費 第一部・第二部1,000円
第三部5,000円(会員・一般)
学生無料
(学生は第一部・第二部のみ参加可)

近畿建築士会協議会女性部会
第3回 くらしとすまいをみつめる
地域にある気候風土に適応した住宅を造るた
めにパッシブデザインの基礎を知り、省エネ
ギーな暮らしを提案するために必要な設計手
法と事例を学ぶ
2/10 CPD2単位(予定)

「くらしとすまいをみつめる」をテーマに、社会的
課題の解決方法やストック社会に向けて、建築
士として知っておくべきことを主眼においた継続
セミナー・勉強会も3回目を迎えました。近年は
住宅の省エネルギー化に向けて、様々な施策
が始まっています。外皮計算や一次エネルギー
等基準に応じた住宅を計算し、提供することが
義務付けられ始めました。同時に、地域で長い
年月をかけて培われてきた伝統的な住宅を造り
続けることができるような認定ルールの策定も
始まっています。建築士は、その両方の特徴を
捉え、未来に残す建築物について考えなければ
なりません。そこで、本セミナーでは、気候風土を
生かした住宅を作るために必要なパッシブデザ
インの基礎を知り、省エネルギーな暮らしを提案
するために必要な設計手法と事例を学びます。
日時 2月10日(土) 13:30～15:45
受付13:00～
会場 日本綿業倶楽部(綿業会館)
大阪市中央区備後町2-5-8
講師 豊田保之(トヨダヤス建築設計事務所)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
申込締切 12月20日(水)

第13回海外研修旅行
「悠久のインド～タジマハールとチャンディーガル」
2/22～26 CPD15単位(予定)

今回はインドへ弾丸ツアーで3泊5日のツアー
になる。タジマハールとチャンディーガルに的を
絞っての研修で、インド料理と共にインドに浸る
旅です。

日程 2018年2月22日(木)～26日(月)
食事 朝食3回・昼食3回・夕食2回
(機内食は含みません)

利用航空会社 大韓航空(エコノミークラス)
行先 インド(タジマハール・チャンディーガル)
チャンディーガル市内、政府美術館、ル・
コルビジェ設計の建築群「キャピトル・コン
プレックス」合同庁舎、州議事堂、高等
裁判所、オープン・ハンド・モニュメント、ネッ
ク・アンド・ロックガーデンなどを視察予定
参加費 165,000円
コーディネーター 森田茂夫(国際分科会代表)
定員 15名
締切 12月15日(金)

平成30年 在阪建築15団体
合同新年交礼会
1/4

在阪建築15団体による合同新年交礼会です。
日時 1月4日(木) 15:00～16:00
会場 リーガーロイヤルホテル2F「山楽の間」
大阪市北区中之島5-3-68

会費 3,000円
申込締切日 12月1日(金)

事務局年末年始休暇のお知らせ

12月29日(金)から1月4日(木)まで休ませてい
たきます。

本会の催し参加問合せ・申込先

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

小規模非住宅建築物
省エネルギー性能に係る実態調査
11/17～3/16

国土交通省は、平成29年11月17日から翌年3
月16日までの期間で、今後の建築物に係る省
エネルギー施策の検討を進めるため、300㎡未
満の非住宅建築物(新築)を対象に、省エネ
ギー性能に係る実態調査を実施します。指定
確認検査機関の確認申請窓口において、本
調査に係るアンケート調査票が配布された際
には、調査にご協力ください。
詳細は、以下のHPをご覧ください。
日本建築士会連合会HP
http://www.kenchikushikai.or.jp/data/news/2017-11-13.pdf

Others

その他のお知らせ

展覧会
建築家・安井武雄の創造力
～近代大阪の精華～
12/1～12/26

安井建築設計事務所は、創業者・安井武雄
(1884-1955)の展覧会を開催しています。

安井武雄は、1884年に千葉県に生まれ、東京
帝国大学工科大学建築学科を卒業後、南満州
鉄道、片岡建築事務所を経て、1924年に安井
武雄建築事務所を開設。1920年代から50年代
にかけて大阪を拠点に活躍し、大阪ガスや野村
證券グループなど大阪企業のオフィスビルや関
係者の邸宅を、独自のデザインで手がけました。
本展では、安井武雄の代表作であり、いまなお
現役のビルとして大阪市民に親しまれている「大
阪倶楽部」、「高麗橋野村ビル」、「大阪ガスビ
ル」の3つの建物を中心に、建築家・安井武雄
の軌跡を図面、スケッチ、写真、映像などで紹介
し、安井武雄の創造力が大阪のまちでどのよう
に発揮されていたのかを展望します。同時に、そ
れらの作品の背景にある、大正後期から昭和初
期にかけての「大大阪時代」の活力を伝え、近
代大阪の精華とは何か、その一端に迫ります。
会期 12月1日(金)～26日(火)
時間 9:00～20:00(平日)
9:00～17:00(土曜・最終日)
休館日 日曜・祝日
会場 大阪府立中之島図書館 本館3階 展示室
入場料 無料
問合せ 大阪府立中之島図書館
Tel.06-6203-0474(図書館代表)
安井建築設計事務所 WEBサイト
http://www.yasui-archi.co.jp/ys-today/20171110-1.html

JIA近畿支部 都市デザイン研究会
市民大学講座 2017まちづくりセミナー
「ソーシャルデザイン・ビジネスの行方」
12/7 CPD2単位(予定)

今や私たち建築の専門家にとって、社会や地
域のコミュニティと向き合い、社会そのものの仕
組みや新しいあり方を考えることが社会的な要
請になりつつあります。

そうしたより広義の意味でのデザイン活動に
先駆的に取り組んでおられる方々を迎えてセミ
ナーを開催致します。

日時 12月7日(木) 18:30～20:30
会場 TOTOテクニカルセンター2階プレゼン
テーションルーム(本町)
講師 金野幸雄(一般社団法人ノト代表理事)
「古民家と社会的企業」
定員 100名(先着順)
受講料 一般1,000円 学生無料
申込 受講日・氏名・所属・建築士又はCPD番
号・メールアドレスを記入の上、Eメール
にてお申込み下さい。

申込先 jia-ud@googlegroups.com
http://jiakinki.kir.jp/kinki/wp/wp-content/uploa
ds/b6d11c3c28c7f571129b4e1d1aae2369.pdf

「建築工事標準仕様書JASS6鉄
骨工事ならびに関連指針」改定講習
会(大阪開催)
1/26

およそ10年ぶりに大規模な同時改定を行っ
た、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事と
2冊の「鉄骨工事技術指針」および「鉄骨精度
測定指針」の4冊をテキストとした講習会です。

主催 (一社)日本建築学会
日時 1月26日(金) 10:00～17:00
会場 ドーンセンター7階ホール
大阪市中央区大手前1-3-49
定員 400名
参加費 本会会員29,000円(テキスト代含)
問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

「鋼構造座屈設計指針」改定講習会
(大阪開催)
3/2

座屈現象そのものを今までよりも広い視野で観
察し記述された「鋼構造座屈設計指針」の改
定版の講習会です。

主催 (一社)日本建築学会構造委員会
鋼構造運営委員会
日時 3月2日(金) 10:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 150名
受講料 本会会員14,000円(テキスト代含)
テキスト「鋼構造座屈設計指針」
問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成29年度建築士定期講習

1/25、2/28、3/26、3/30 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成26年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程・会場
1/25(木) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-05
2/28(水) 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-55
3/26(月) 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-06
3/30(金) 大阪府建築健保会館
定員90名 会場コード5C-56
時間 9:25～17:00
申込書必着日 1/25(木)講習:12/21(木)
2/28(水)講習:1/24(水)
3/26(月)講習:2/19(月)
3/30(金)講習:2/23(金)
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税込)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

建築士会会員受講料全額補助

大阪府住宅省エネルギー設計者講習会
12/5 CPD6単位

国土交通省が新省エネ基準を2020年までにすべての新築住宅に適合を義務付けることに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得をしていただく講習会です。

日程 12月5日(火)
時間 9:45～16:45(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 120名
受講料 会員 本会が補助
会員外1,000円(テキスト代金)
※建築士会会員は受講料を本会が全額補助。
申込 専用のWEBからお申込みください。
HP [省エネ講習会](#) [検索](#) 
詳細は今月号同封のチラシをご覧ください。

大阪府知事指定講習

平成29年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
12/7・2/9 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることが

できる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)
日程 ①12月7日(木)
②平成30年2月9日(金)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

建築士法にもとづく建築技術講習会

温熱・気流シミュレーションが導く新たな建築設計のすがた
12/19 CPD2単位

空気を知り建築を設計していくことは、快適な空間を創造するうえでとても重要なファクターとなります。今回は、空気の熱や流れをシミュレーションする手法としてCFD(数値流体力学)解析を紹介します。これにより建物内外の温熱・気流を3次元的にシミュレーションし見える化することが可能で、設計段階での検証や分析・検討に活用できます。空気の変化を科学的な視点から捉え、最新のIT技術と結びつけることで、建築空間へ新たな価値を創出することを目指します。
日時 12月19日(火) 14:00～16:30
会場 大阪府建築士会会議室
定員 60名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円
後援団体会員4,000円
一般5,000円

建築士会会員受講料全額補助

大阪府住宅省エネルギー設計者講習会
簡易評価法(仕様ルート・簡易計算ルート)
1/17・1/23 CPD6単位

省エネ基準の評価方法には①仕様ルート、②簡易計算ルート、③詳細計算ルートがあり、②簡易計算ルートはこれまでの③詳細計算ルートと違い、屋根・壁・開口部等の外皮各部位の面積計算をすることなく熱性能値を電卓等で簡単に計算できます。初めて省エネ計算を学ばれる方にも理解しやすく、省エネ評価入門編の『簡易評価法』について、本講習会でわかりやすく説明いたします。
日程 1月17日(水)・1月23日(火)
時間 9:40～16:30(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 各回120名
受講料 会員 本会が補助
会員外1,000円(テキスト代金)
※建築士会会員は受講料を本会が全額補助。
申込 専用のWEBからお申込みください。
HP [省エネ講習会](#) [検索](#) 
詳細は今月号同封のチラシをご覧ください。

平成29年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
1/18、2/15、3/7 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。
日程 1/18(木)、2/15(木)、3/7(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み 9,500円
郵送申込み 10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習

平成29年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
1/30 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程 1月30日(火)
時間 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士法にもとづく建築技術講習会

建築紛争における法的措置とその対応策
1/31 CPD3単位

建築紛争は、瑕疵や契約問題にかかる設計者、工事請負者と建築主の争いから、高層マンション等の建設に関する近隣住民と建築主との争いに至るまで多様化しており、法的措置に発展する事例も少なくありません。そこで、建築紛争における法的措置とその対応について、大阪地方裁判所裁判官と大阪府建築審査会委員の法律専門家を迎え、講演会を開催します。
日時 1月31日(水)
14:00～17:00 講演会
17:30～19:00 交流会
会場 大阪府建築士会会議室
定員 60名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円
後援団体会員4,000円
一般5,000円
交流会費 1,500円(希望者のみ)

平成29年度文化遺産総合活用推進事業

「文化財の活用を通じて保存を学ぶ」
(全4回)
12/9・1/14・2/17・3/17

歴史的建造物を会場に、文化財所有者からその保存と活用について直接話を伺います。また着物、能楽、書道といった毎回異なる活用事例のワークショップに参加・検証を行い、最終回では受講生の皆様にワークショップ等の企画をしていただきます。これらの実践的な経験を積むことで、文化財の活用を通じて保存活動ができる力を養います。事前申込制となっておりますので本会ホームページから申込書にてFAXまたはメールでお申込ください。

日程 ①12月9日(土) 寺西家住宅・着物
②1月14日(日) 藤井家住宅(石切グレック)能楽
③2月17日(土) 少彦名神社・書道
④3月17日(土) 中之島図書館:ガイドツアー
時間 各回共13時～16時
場所 上記登録文化財・重要文化財
※開催場所・集合時間は、「参加証」にてご案内します。
募集 各回30名(申込先着順)
※但し、ヘリテージマネージャー受講生優先。
参加費 各回2,000円(全4回8,000円)
※詳細は本会ホームページをご覧ください。

第62回大阪建築コンクール募集

1/15～31

本コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会会員を表彰するもので、今回で第62回を迎えます。渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者を表彰します。募集対象 大阪府知事賞部門、渡辺節賞部門(完了検査済証発行日で39歳以下) 両部門共建物の種類・規模は問わない

審査委員

委員長 松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)
委員 鈴井修一(京都大学名誉教授)
梶田洋子(桃李舎主宰)
松岡 聡(近畿大学教授)
松田浩三(大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長)

応募期間 1月15日(月)～1月31日(水)
応募資格 大阪府知事賞部門:本会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
渡辺節賞部門:本会正会員または大阪在住もしくは在勤の者で完了検査済証発行日で39歳以下の者
応募料 本会正会員 1作品20,000円
本会正会員外 1作品につき40,000円
※応募詳細は本号同封の第62回大阪建築コンクール応募要項をご覧ください。

建築士のつどい2018

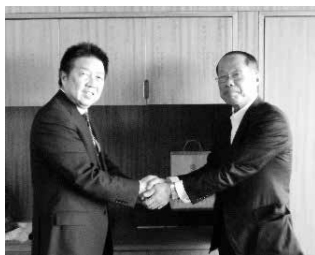
2/10

建築士会に所属する建築士による各地域での活動の発表後、リノベーションの第一人者である建築家の大島彦彦先生に講演いただき、私

動静レポート

会長動静

- 10/26 大阪府収用委員会
泉大津副市長、忠岡町長面談
- 10/28 女性分科会 30 周年記念事業
- 11/1～5 第 20 回日・韓・中建築士協議会
- 11/ 6 建築 15 団体午餐会
- 11/ 7 泉南市長、岬副町長面談
- 11/10 大東市長、四條畷市長面談
- 11/14 大阪府収用委員会
鑑定支援業務会議
建築 4 団体会長支部長会議
- 11/15 正副会長会議、理事会
- 11/16 田尻町長、熊取町長面談
大阪府中小建設業協会式典
- 11/20～21 ハワイ州建築家意見交換会



(左) 森田
泉大津副市長



(右) 和田
忠岡町長



(右) 竹中
泉南市長



右から田中副会長、中口岬副町長、岡本会長、
杉本地域幹事、中特任顧問



(右) 東坂大東市長



右から林四條畷副市長、東市長、岡本会長、
石貫副会長、上高原北河内幹事



(右) 栗山
田尻町長



(右) 藤原
熊取町長

社会貢献委員会

既存住宅状況調査技術者講習会の受講状況

宅地建物取引業法改正により、平成 30 年 4 月から既存住宅取引の重要事項説明時等において「既存住宅状況調査」（インスペクション）に関する説明が義務付けられます。

調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士の上に認められるため、建築士の新たな業務として期待されています。日本建築士会連合会は国交省に講習機関の登録を行い、全国の建築士会で講習を実施しています。現在の全国の申込状況は、新規講習 7,597 名、移行講習 4,028 名で、そのうち大阪では新規講習 525 名、移行講習 241 名が受講され、建築士の皆様の関心の高さが伺えます。

研修委員会

TSURUMI こどもホスピスへ寄付

「TSURUMI こどもホスピス」は日本初のコミュニティ型こどもホスピスです。昨年グッドデザイン賞、本年 BCS 賞を受賞しました。

同館は「命を脅かされたこどもがやってみたいと思うことを叶え、その子の成長を支える場所」、また「家族がつらいときや悲しいときに支えが得られ、自由に休める場所」の提供を理念とし、治療や医療的な緩和ケアではなく、病状を把握した看護スタッフが見守る環境で、難病児と家族による日中利用や宿泊施設の提供、交流イベントを開催しています。また、施設は個人、企業、団体などの寄付により運営されています。

本会は 10 月度、11 月度の理事会において出席された理事に対し寄付を募ったところ全ての理事に賛同をいただき、総額 5 万円を同館に寄付することとしました。また、研修委員会では来年 3 月に見学会を企画していますので、ぜひご参加下さい。

建築表彰委員会

第 37 回大阪都市景観建築賞最終審査を実施

本会が事務局を務める第 37 回大阪都市景観建築賞（愛称：大阪まちなみ賞）の現地審査と最終審査を 11 月 7 日に実施しました。現地審査は書類審査により選出された 12 件について、久審査委員長をはじめとする 7 人の審査員により実施しました。

終了後、引き続き最終審査を行い、現地審査の状況を踏まえて討議した結果、大阪府知事賞、大阪市長賞、審査員特別賞、緑化賞、建築サイン・アート賞のそれぞれ 1 作品、奨励賞 5 作品合計 10 作品を選定しました。今後、入賞作品集を作成し、報道発表します。



現地審査風景

大正 15 年竣工 旧大林組本店ビル「ルポンドシエルビル見学会」報告

日程：平成 29 年 10 月 14 日（土） 会場：ルポンドシエルビル他 参加者：24 名

松岡啓介（大阪市東地域会会員）



大阪市東地域会では、建物見学会を企画／推進しています。第一回の「山本能楽堂」の好評を受け、今回は、旧大林組本店だった「ルポンドシエルビル」の現場見学会を開催致しました。

ルポンドシエルビルは、当初大林組の本店ビルとして建設されたものですが、関東大震災の被災体験を生かした、大正末期に建てられた耐震性ビル（鉄筋コンクリート造）の先駆者的存在の建物と言えます。昭和 40 年代後半には、土佐堀通りを挟んだ南側の敷地に、超高層の新たな自社ビル（旧大林ビル）が建設され、そちらに同社の本店機能が移されましたが、その後も適宜保全や改修（耐震補強を含む）が行われ、現在に至っています。

参加された方々に感想をお聞きしたところ、面白かったと言ったお声だけでなく、地下一階レストラン「さがん」の雰囲気

やお弁当（昼食付見学会でした）も好評を頂きました。また、臨時に開館して頂いた大林組歴史館も十分楽しんで頂けたようでした。

このところ、建物の長寿命化対策や既存ビルのリノベーションなど、改修市場が活気を呈しています。ルポンドシエルビルに於ける様々な保全／改修／耐震技術をご紹介させて頂く事を通して、見学会参加の皆様の知識に少しでも役立つ内容があればと願っております。

今後も、皆さんが知りたい情報を探し発信していく事で、大阪市東地域会の輪（和？）を広げて行きたいと思えます。

閑話休題。毎回、地域会の打合せでは“建築士が集う楽しい会合計画”などについて喧々囂々と議論を交わしています。時には会合が終わった後の赤ちょうちん談義で、大いに盛り上がる事も有ります。他の地域会の皆さんも是非、大阪市東地

域会のイベントへ参加頂ければ幸いです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



女性分科会 30 周年事業 WORLD Café「建築女子がきづく未来」報告

日程：平成 29 年 10 月 28 日（土） 会場：ドーンセンター 参加者：一部 101 名、二部 111 名、三部 68 名

田代加奈（理事）



女性分科会は 2017 年 30 周年を迎えました。

記念事業として建築女子を集めてワールドカフェ形式のトークイベントを実施しました。参加者を広く募るため、事務所協会、建築家協会、建築協会、建築学会の在阪 5 団体の共催事業として一年前より実行委員会を結成し会議を重ねてまいりました。その成果もあり、意匠、インテリア、施工、構造、学生、休職中の方、現役を終えられた方など、様々な立場・年代の 100 人近い建築女子に参加して頂く事が出来ました。お菓子をつまみ、お茶を飲みながら 12 テーブルに分かれ、席替えをしながら、①なぜ建築に関わっているのか、②建築女子が活躍するために必要なものは、③建築女子が考える魅力的な社会・都市・建築・まち—の 3 つのテーマについて全員が発言できるよう

にしました。すべてのテーブルで女性ならではのコミュニケーション能力が発揮され、非常に盛り上がり、活発に意見交換をしていただきました。

第二部では第一部の報告に続き、国土交通省住宅局長の伊藤明子様に「建築女性に期待する」というテーマでご講演頂きました。女性ばかりでなく、男性の参加も多く、少子高齢化時代に虫の目よりも俯瞰的に社会を見ることのできる鳥の目を持ち、女性もメインテーブルに着くよう努力が必要、今がチャンスであると学びました。

事業の成果として以下の 3 つの未来宣言をしました。

- ①魅力ある建築と都市をきずきます。
- ②建築女子ネットワークを構築します。
- ③女性支援と意見発信を行います。

これからの時代は情報が瞬時に伝わる時

代です。そのスピードに対応できるように建築女子もネットワークを構築し、女性ならではの感性を建築、都市、まちづくりに生かし、共に学び、議論し、社会に発信する事が必要です。少子高齢化の次代を担う若い世代の建築女子がライフイベントに左右されることなく仕事を継続、輝き続けることができるように、力を合わせて活動して行くことを宣言しました。



松原市における新たなまちづくり

文 川村 健二

1. はじめに

松原市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、北に大阪市、八尾市、西及び南に堺市、東に羽曳野市、藤井寺市と隣接しているまちです。古代から長尾街道、中高野街道などの街道が交差する交通の要衝として栄えるとともに、歴史的な寺社や古墳が点在し、「松生いし丹比の松原」と言われてきたことから、「松原」という地名になったと伝えられています。現在も西名阪自動車道、近畿自動車道、阪和自動車道、阪神高速道路等が交差しており、交通利便性に恵まれています。さらに、阪神高速道路大和川線や都市計画道路堺港大堀線が工事中であり、事業完了後には、堺市や大阪湾岸部及び神戸方面へのアクセスが改善され、ますます、人や物の流れが活発になると予想されます。また、鉄道につきましても、市内を走る近鉄南大阪線により、市役所最寄駅である河内松原駅から大阪阿部野橋駅までおよそ一〇分という好立地になっています。

八尾市に編入され現在の東西約五・八km、南北約五・一km、面積約一六、六六kmのほぼ平坦な地域が形成されました。市政施行当時は、人口約三万六千人の田園都市でしたが、昭和四〇年代に急激に進んだ都市化に伴い人口が増加し、二〇一七年一〇月一日現在では約一二万一千人となっています。

2. 天美地区のまちづくり

道路網の発達により、それを活かした商業・業務施設等の開発に対する需要が比較的高いと思われる本市ですが、幹線道路沿道という開発に適した土地も含め、市域のおよそ二三％に当たる区域が市街化調整区域となっており、せっかくの好立地を有効活用しているとは言いがたい状況でした。

そのような状況の中、本市では二〇一一年三月に策定した「松原市第四次総合計画」において、幹線道路が交わる箇所を「大規模集客商業施設用地」と位置付けました。また、二〇一二年三月には「松原市新都市計画マスタープラン」を策定し、市街化調整区域内の広幅員道路の結節点などについては、土地利用の混在化を防止しつつ、地区計画の活用を含め、大規模商業施設や工業施設、特定流通業務施設などの計画的な立地を促進

する「都市型複合拠点地区」と位置付けました。

併せて、阪神高速三宅ジャンクション（以下JCT）から堺市の三宅JCTまでの約九・七kmを結ぶ阪神高速道路大和川線やその地上部を国道三〇九号から府道大阪狭山線まで約二・一kmに渡って走る都市計画道路堺松原線、また、その堺松原線と府道大堀堺線を結ぶ都市計画道路大阪河内長野線の整備が具体化されたこともあり、二〇一一年三月に堺松原線と大阪河内長野線の交差点部を中心とする「大規模集客商業施設用地」に位置付けられた本市北部の天美地区における約三・一haの土地を保留区域に設定し、二〇一一年度より地域の地権者と共に、まちづくりに関する勉強会を開始しました。また、二〇一一年度からは天美地区の保留区域をA地区、B地区、C D地区とゾーン分けし、勉強会等における話し合いの中で、B地区の一部である約九・二haについては、組合施行かつ業務代行方式による土地地区画整理事業を行い、A地区及びC D地区については、民間開発の手法でまちづくりを進めることとなりました。その後、二〇一五年三月には天美地区の保留解除を行い市街化区域へ編入するとともに、A地区、B地区、C D地区のそれぞれに

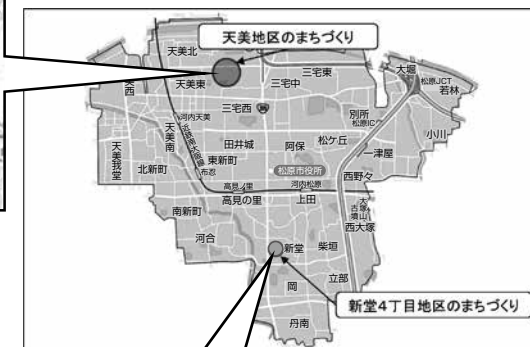
幹線道路沿道にふさわしい土地利用への誘導及び商業施設、業務施設等が複合的に立地し、かつ、周辺の住宅等とも協調した良好な市街地の形成を行い、魅力ある都市拠点の創出を図ることを目標とした地区計画を定め、市域面積における市街化調整区域の割合は、約二・二％となりました。

B地区の一部で実施されることとなった土地地区画整理事業につきましては、二〇一三年九月に事業化検討パートナーが決定し、二〇一四年二月に土地地区画整理準備組合の設立、そして、二〇一五年六月の「松原市天美東土地地区画整理組合」の設立及び業務代行者の決定を受け、事業として実現する運びとなりました。その後、二〇一六年三月には事業計画変更が行われ、現在の事業区域は約一〇haとなっています。二〇一七年度に事業区域内の道路、公園、緑地といった公共施設の整備を終え、二〇一九年度に事業を完了する予定です。ここまで、土地地区画整理事業は順調に進められており、二〇一七年六月には、大規模商業施設の建設予定地を土地地区画整理組合より事業者であるセブン&アイ・クリエイトリンクへ引き渡すことができました。ちなみに、大規模商業施設の敷地面積は、およそ六七〇〇〇㎡、年間来客者数の見込み

が約一二〇〇万人、施設での雇用者数は二〇〇〇人から三〇〇〇人を想定しています。

今後 まちびらきに向け店舗の建築が行われていく予定ですが、それに歩調を合わせる形で大規模商業施設の敷地以外においても民間資本による開発行為が徐々に展開されていくと考えられます。

これまでの田園風景がまったく新しいま



ちへと変貌することで、新たに賑わいの拠点が生ずることが期待されるところにも、本市ではこれまでに類のない大規模店舗の出店により、買い物のために市外へ出掛けていた住民の皆さんの需要を市内で満足することができるようになり、地域の将来にもたらす波及効果は大きなものになると考えています。

3. 新堂四丁目地区のまちづくり

本市南部に位置する新堂四丁目地区は、国道三〇九号及び本市と羽曳野市を結ぶ都市計画道路新堂南線沿道という好立地にもかかわらず市街化調整区域となっており、地区のポテンシャルを活かしていない状況でした。しかし、二〇一一年三月に策定した「松原市第四次総合計画」において「大規模集客商業施設用地」と、また、二〇一二年三月策定の「松原市新都市計画マスタープラン」においては、「都市型複合拠点地区」と天美地区同様の位置付けを行い、二〇一三年度より地元地権者と共にまちづくり勉強会を始めました。その後、二〇一四年一二月にまちづくり協議会を、また、二〇一七年二月に土地地区画整理準備組合を設立し、現在、二〇一八年の土地地区画整理組合設立に向け、事業計画の検討を進めています。なお、その過程では、事業化検討パートナーを二〇一五年六月に、さらに、業務代行予定者を二〇一七年六月にそれぞれ戸田建設及びイオンタウンの共同企業体に決定するとともに、二〇一六年三月には約一〇haの新堂四丁目地区を保留区域に設定しました。今後、地権者同意の取得を含む作業並びに土地地区画整理事業が計画どおりに運べば、保留解除は二〇一八年三月、まちびらきは二〇二二年春の予定となります。

4. おわりに

ここまで、最近の本市における土地
画整理事業の経緯や今後の予定につ
いてきましたが、それ以外の地区につ

きまして、「幹線道路沿道まちづくり事業」として、都市計画道路堺松原線や都市計画道路路堺大堀線沿いの市街化調整区域の地権者を対象として、まちづくり勉強会を開催したり、地域住民が地域のまちづくりを考えるための勉強会の講師としてアドバイザーを派遣する「市民参画まちづくり支援事業」をとおして、地権者のまちづくりに対する機運を高めました。

今後、本市としましては、交通利便性の高い立地を活かし、幹線道路沿道を中心とした地域において、地権者のみなさんと共に協働のまちづくりを進め、すでにお住まいの方のみならず、これから松原市に住もうと考えている方並びに本市で事業展開を検討されている事業者に対して、魅力あるまちを提供していきたいと考えていますので、よろしく願います。



川村 健二

松原市役所都市整備部まちづくり推進課主幹兼区画整理係長
一九七五年 高槻市生まれ
一九九八年 大阪市立大卒卒業
二〇〇〇年 松原市入庁
二〇一六年 四月より現職



紫金寮は京都女子大学の100年以上続く教育寮としての伝統を尊重しつつ、現代の学生ニーズにも応えた新しい「京女スタイル」の学生寮である。

寮生室は京女伝統の3人部屋がバルコニーを共有して向き合う構成とし、部屋間の間仕切りを開放すれば6人部屋としても使用することができ、外観はこの特徴的平面構成をそのまま現したものとなっている。家具ユニットで個人のプライバシーを確保しつつ、3人から6人で共用できる「室内リビング」、フロア単位で共用できる「リビング・キッチン・ダイニング」、寮生全員が毎朝礼拝に集まる「仏間」など、様々な単位のスペースを共用することによって生活の中で自然にコミュニケーション力が高められる計画とした。外装は大学のデザインコードであるレンガ調タイルとRC打ち放しにより構成した。内部廊下は屋外の路地として、各寮生室の入口は玄関として見立て、外部の素材を内部にも取り入れた構成とした。各所に採用したヒノキ材と女性に配慮したディテールにより新しい女性のためのシェアハウスをつくりだした。

所在地：京都府京都市
用途：学生寮
竣工：2017.09
構造規模：RC造 地上5階
敷地面積：5,254.89㎡
建築面積：1,747.35㎡
延床面積：6,176.31㎡
写真：東出清彦写真事務所・エスエス大阪





伝統工芸学科と建築学科をもつ大学の新キャンパス。鴨川通り沿いに80mを超える間口を有した立地を活かし、鴨川に沿って浮かび流れる特徴的なファサードとすることで、歴史を受け継ぎ、未来を切り拓く学校のアイデンティティを表現した。本敷地は小学校の跡地利用を促進する京都市のプロジェクトの一環である。既存校舎は耐震改修と必要最小限の内外装改修を行い、木工、陶芸などの実習室として利用、一方新築棟には、大小の教室の他、ギャラリー・図書室・カフェテリアなどを計画した。新築棟を既存校舎に相対するかたちで配置することで、運動場を中庭として残し、中庭を介して新旧校舎が一体となるキャンパスを目指した。（黒川宗範）

建 築 主：学校法人
二本松学院
所 在 地：京都府京都市
用 途：大学
竣 工：2017.03
構造規模：S造
地上3階建
敷地面積：8,108㎡
建築面積：4,509㎡
延床面積：9,873㎡
写 真：SS 大阪



照明メーカーの新たな開発拠点となる「ひかり」をテーマとした研究施設である。開口部からの自然光や照明器具の人工光を建築と一体的にデザインし、建築と照明の間にある境界が消えたデザインを目指した。前面道路からの騒音等、厳しい敷地条件のなか、快適で働きやすい環境をどう実現するか。窓が必要ない暗室仕様のラボ特性を手掛かりに、構造体となる壁で建物を囲み、周辺の環境負荷要素を一旦遮断し、建物中央に守られた外部環境を挿入することで光と空気をワークスペースに取り込んだ。敷地環境を丁寧に読み込み、相反する要求プログラムをシンプルに解くことで、敷地と人に寄り添うデザインとした。(東井嘉信・西森史裕)

建築主：大光電機株式会社
所在地：大阪府東大阪市
用途：研究施設
竣工：2017.04
構造規模：RC・S 混構造
敷地面積：4,983.46㎡
建築面積：2,302.77㎡
延床面積：3,849.95㎡
写真：稲住写真工房



世界遺産である下鴨神社「糺の森」の第3期整備計画における、定期借地契約による99戸の分譲型集合住宅の計画である。世界遺産のパッケージゾーンである計画地に、既存樹木に干渉しないように全8棟の分棟配置とすることで、樹木を最大限に保存し、森の環境保全を行った。また、参道に面する住棟をセットバックし、新たに緑地帯を設け樹木を増やし、糺の森と連続した景観を創出した。以前にこの地域にあった社家町の雰囲気を持続すべく、集合住宅は日本瓦葺きの切妻屋根で構成し、外構は和風塀・水盤・生垣などを組み合わせて配置することで、歴史と自然が共棲する参道空間を再構築した。（阪本泰智、丸子勇人）

所在地：京都府京都市
用途：集合住宅
竣工：2017.06
構造規模：RC造3階
敷地面積：9,647㎡
建築面積：3,724㎡
延床面積：9,433㎡
写真：古川泰造



地域に根ざした神社の参集殿は、神事を司る大広間と社務所を併設しており、手漉き和紙の障子で柔らかく間仕切ること、婚礼・講話・美術展示など、多様な要望に応える構成としています。神聖な空間でありながら、一般にも気軽に利用いただけるよう、壁面は躯体と同じ唐松を用い、背筋が伸びすぎない優しい空間としました。本殿に至る参道に面する外観は、控えた意匠とするため、神社建築に見られる千木がニョキニョキと突き出すのではなく、屋根の下に沈め斜めに振ることで、X-Y軸の耐力を補う構造としました。これは、氏子と神社の連綿と続く長い歴史を表現しており、参拝者の記憶に残る“集いの場”となっています。

所在地：大阪市西淀川区
用途：神社・参集殿
竣工：2017.02
構造規模：木造平屋建て
敷地面積：3,398.98㎡
建築面積：620.54㎡
延床面積：223.79㎡
写真：浅川 敏

第10回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 古谷 誠章（早稲田大学教授）



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞（賞状と記念盾）

建築人奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第10回 対象作品

「建築人」2017年1月号から2017年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの



建築人賞 記念盾 「未来へ！」

ガラスアーティスト 三浦啓子作

■ 審査方法（2段階審査・予定）

一次審査 建築人誌面、公開プレゼンテーションにより選定

二次審査 現地確認により選定

■ 受賞発表

建築人 2018年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2018

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

モノクロ 2ページ 10万円

モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

二〇一七年九月下旬、東京都三鷹市にある村野藤吾の手がけた日本ルーテル神学大学（現・ルーテル学院大学）のキャンパスを再訪する機会があった。私事ながら、遠い昔の学生時代、同級生と満開の桜の時期に訪ねたのが、村野建築との初邂逅である。

一九七八年の春だった。当時は、超高層ビルの建設ラッシュが進む中、「巨大建築論争」が起き、三里塚（成田）空港の開港を目前にした農民たちの激しい抵抗運動の支援に、身近な学生たちが現地へ赴く事態にも遭遇し、建築の行方と自らの将来に思い悩んでいた。そんな最中に、長谷川堯『神殿か獄舎か』（相模書房、一九七二年）と出会い、希望の灯のように夢中で読み終えた。そして、紙面に紹介されていたこの建築をどうしても見たくなったのだと記憶する。訪れると、竣工から半世紀近くが経ち、周囲は宅地化して、増築などで様子が変わってはいえるものの、当時の感動が甦ってくる。

この建築の空間体験には、その場に身を置かないと気づきにくい一種独特のものがある。包み込まれ、抱かれて、心と身体が自然と開かれていく心地よさ、とでも言ったら良いだろうか。そのことは、竣工直後、建築評論家の小能林宏城が記した次の文章でも、すでに明快な言葉で綴られていた。

「このキャンパスに練りひろがる空間や空間シークエンスは、温和であり、静謐であり、ニュートラルである。造型表現や建築形態もまた、控え目であり、デリケートであるが簡潔であり、古拙的であるときえいえる。（中略）すべてが、抑制されており、簡潔であり、中庸である。しかし、この建築空間は、それと気づかぬまま人をひきこみだきこんでしまうのだ。いつし

か、この建築空間の中に誘いこまれ、さまよい、へめぐり、滞留している自己を発見し、この空間の閉鎖感や抱擁感を気づかされることになるのである。」（小能林宏城「日本ルーテル神学大学を見て―意味された『世界』『新建築』一九七〇年七月号」）

また、生前の村野と深い親交を重ねてきた長谷川堯は、村野が亡くなる直前の一九八四年に出版された作品集、『村野藤吾 TOGO MURANO 1964→1974』（新建築社）

記憶の建築

松隈 洋

日本ルーテル神学大学 1969 年
村野藤吾が実現させた神の民の学舎



東側から見るチャペル外観



静謐な光に包まれた校舎内部

「彼の建築は、その建物の使用者にとって目の前にあるもの、つまり客観的な対象であることを超えて、彼らの「身体」にかかわるものとなっているからである。」

ここに示されたのも、小能林の指摘と重なる身体に直接響く空間の抱擁感である。それにしても、この建築はどのような経緯から生み出されたのだろうか。それを解き明かす手がかりとなる著書が残されている。E・A・ソビツクの講演録、『神の民の家―

に寄せた解説文の中で、ル・コルビュジエの強い影響を受けて設計された宝塚カトリック教会（一九六六年）や西宮トランプスチス修道院（一九六九年）と、日本ルーテル神学大学の三つが、「村野が近代合理主義建築の堅苦しい制約をゆうゆうと脱け出して、いわば自在の境地といった世界を切りひらくために、重要な契機となった作品」と評価していた。さらに、後者の二つが、「村野の七〇歳代の最後を語る秀作」とした上で、次のように指摘したのである。

そこには、村野の建築家としての姿勢を正確に理解した上で、キャンパスの設計を依頼した大学当局の見識があった。また、宗教改革者のマルティン・ルターが唱えたキリスト教精神に基づく教育環境を整えるために、一九六六年七月には、アメリカのルーテル教会から、建設顧問として、教会建築に造詣の深いソビツクが派遣され、求められる大学キャンパスの姿についての対話が重ねられていく。彼は、村野の千代田生命本社（一九六六年）も視察し、村野とも話し合いを持ったのだという。こうして、彼は日本滞在の最後に、村野や建築委員会を前に、大学キャンパスの基本理念となる「神の民の家」と題する講演を行い、その記録が著書にまとめられたのである。

京都工芸繊維大学に所蔵されているこの建築の図面は合計四〇〇枚を超える。記入された日付からは、設計が一九六六年夏から竣工直前の一九六九年まで続けられたことがわかる。さらに、村野の直筆スケッチを整理したスクラップブックを閲覧した竹内次男の証言（『村野藤吾建築設計図展カタログ2』（二〇〇〇年））によれば、村野のスケッチは一九六三年に始まるという。こうして、村野は大学との深い信頼関係とソビツクが示した理念を消化しながら、彼の言う、「さあ、おいで。一緒に住もう」とでも言うようなたぐいの建築、「集まっていける家族というイメージを支えるような」「空間の形や組みあわせ」を持ち、「そこに人が居るときのみ、真の存在をあらわすような空間」を見事な形でつくり上げたのである。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

大阪市大正区に長屋を再生したシェアアトリエ+住居がオープンし、12月1日より第一期の入居が始まりました。耐震改修の見学会、DIY ワークショップやコンテストなど様々な人を巻き込み、情報発信が行われています。プロデューサーである川幡祐子さんにこのプロジェクトについてご紹介いただきました。

ものづくりの街・大正区で長屋をシェアアトリエに再生

川幡 祐子

大正・港エリア空き家活用協議会（WeCompass）総合プロデューサー

大阪市立大学生活環境学前期博士課程修了。（株）市浦ハウジング＆プランニングに入社し、自治体住宅政策にかかる企画・調査業務を行う。

その後、大阪市住宅供給公社に転職し、専門家団体やNPOと連携し住宅まちづくりに関するセミナーやイベントの企画・運営を実施する。

また、公社団地の事業として、公社も所有権を一部有する区分所有建物の合意形成を図り建替えを実現、公社賃貸住宅団地ではリノベーション事業を実施した。平成28年7月より現職。

「古い長屋はかつこいい」と感じた三代目オーナー

大正区は大阪市の中でも特徴的な街だ。川と海に囲まれ、まるで島のような形をしている。沖縄料理やエイサー（沖縄舞踊）など沖縄カルチャーが身近に味わえ、渡船や長屋など懐かしい風景が残り、中小様々な工場が立ち並ぶ。

梅田や難波までそれぞれ三〇分以内という立地の良さにも関わらず、どこかのどかな雰囲気がある。その大正区の西北部、大正駅から徒歩一五分程度の場所に位置する小川文化北棟を再生した。

大正区は、大阪市全域の空き家率と比べてもその比率が高く、賃貸住宅用の空き家が目立つ。かつて工場労働者用に作られた賃貸住宅が、工場の縮小や廃止により余り気味になっている。一部はミニ開発やマンションに変わり、住宅用途が拡大している。

小川文化北棟も戦後程なく賃貸住宅として建設された。「文化」と名前にあるが「文化住宅」ではなく、正確には二階建の重層「長屋」である。長屋である所以は各戸専用の玄関があるかどうかが決める手らしい。この住宅では各戸に専用玄関があり、二階住戸へのアプローチも一階に専用入口があり五戸分の専用階段がある。これがこの建物の特徴にもなっている。

一〇年以上空き家になっていたこの建物は、三代目の若きオーナーが所有することになり、再生へと進むことになる。新築神話がまかり通っていた前世代とは違い、古いこの長屋を初めて見た若きオーナーは素直に「かつこいい」と感じたらしい。

「建替えよりもなんとか残せないか」



再生前の小川文化北棟

と考えたオーナーは、いろんな事業者に問い合わせたものの、いずれも「建替え」を強めに勧められたらしい。そこで、回り回って私ども「大正・港エリア空き家活用協議会（WeCompass）」にお鉢が回ってきた。

WeCompass へは

「大正・港エリア空き家活用協議会（通称 WeCompass）」は、大正区、港区にある空き家を活用するためワンストップで相談に応じる専門家集団だ。設計士、施工者、宅建士、不動産鑑定士、銀行、弁護士、大学、港区、大正区の寄り合い所帯で活動している。

空き家を活用するためには、建築的なアドバイスや不動産の価格設定・家賃設定、リーシングはもちろんのこと、事業収支、建設資金、事業資金調達の相談も必要となる。また、耐震性を有しない建物については事前に耐震安全性や劣化度合いをチェックし、技術面、金銭面から建て替えかリノベーションかの判断も必要となる。

さらに、相続問題や近隣調整など法務をクリアしてから初めて空き家活用が可能

能となる場合も少なくない。ということ、それぞれ自分の仕事を持ち兼業で、空き家問題に取り組んでいる。

前年度は、個別相談会の開催、空き家活用セミナーの企画・運営を行い、七一件の相談実績があったが、事業に至らない案件も多く、本物件は活用事例第一号である。

若きクリエイターが「住み」「働く」場に

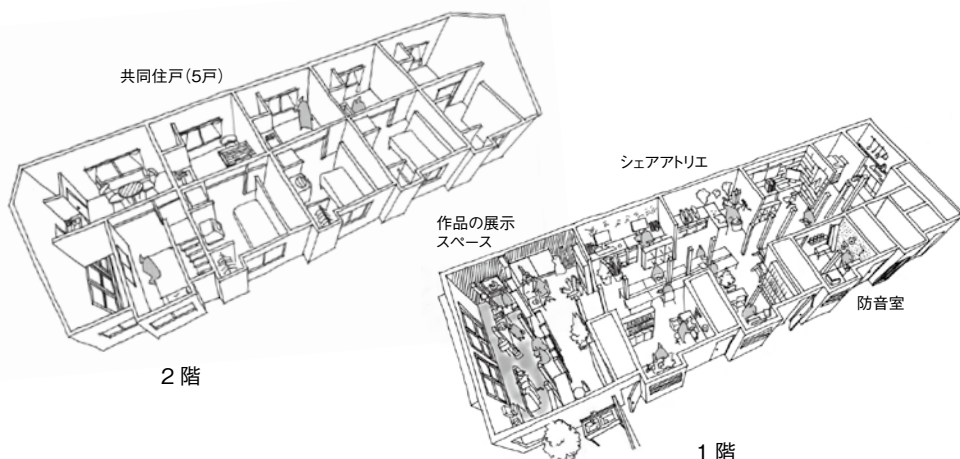
オーナーは北区にある所有物件でシェアオフィス「ヨリドコワークキン」を運営している。継続的にマルシェを開催し、洋服、雑貨、靴、鞆といった服飾系クリエイターとのネットワークを築いてきた。そこで出会った若きクリエイターたちに「お金のない駆け出しのクリエイターが自由に使える工房が少ない」「自分の作品のプロデュース方法や値段設定がわからない」「販路開拓が難しい」という意見を耳にしたという。大正区がものづくりの街であり、それが徐々に衰退していることを知り、大正区の自己所有物件で若きクリエイターがものを作り住まい、ものづくりカルチャーが続くことに少しでも貢献したいと思いついたという。名前も「小川文化北棟」から「ヨリドコ大正メイキン」（メイキン＝メイキングの意味）とした。

一階はシェアアトリエとして、壁面に沿って個人専用の机と棚を、中央には布の裁断や作業に適した大型テーブルを配した。入口部分にはクリエイターの作品の展示スペース、奥には鋳打ちなどための防音室を設けた。

二階はクリエイターのための住戸（五



再生後のヨリドコ大正メイキン



戸)であり、特徴的な専用階段をそのまま生かしている。階段は、間仕切りを取り払い大空間になった一階のアクセントにもなっている。

建築の特徴

(1)耐震改修の実施と見学会の開催
耐震診断、劣化診断結果を受け、耐震改修を行った。

躯体が見える時期に一般参加者向けの耐震改修見学会を開催したが、マニアックな内容に参加者が少ないと想像していたが、約六〇名が参加した。若い世代の参加が多く、関心の深さがうかがえた。

(2)DIYワークショップと古さを生かす工夫

今後は一層、空き家が増え、賃貸物件に投資費用を注ぎ込むリスクは高く、できるだけ費用を抑えるため既存住宅でのDIY需要が高まると予想できる。そのため、本物件において古い建物の良さを活かしたDIYスキルを習得してもらう、一般参加者向けのDIYワークショップを実施した。撤去した古材の再利用、壁のエイジング加工、既存柱を生かすクリーニングと磨き処理のワークショップなどを実施した。延べ二四名が参加したが、古い木造物件オーナーの参加が多く、九割以上が女性参加者であった。

(3)共同住戸は、デザインとDIY実施者を外部から募集

五戸ある二階住戸は、DIYグループを募集し、自らデザインしDIYをしてもらった。参加者の技術の程度に応じて必要な場合は工事のサポートを行った。床を貼る、壁を塗るなど単発の工事をすることがあっても、実地で総合的に部屋を作る経験者は少なく、サポートがなけ

れば次の工程に進めないケースもあった。素人がDIYをするには、ちょっとしたコツ、作業順序、工具の使い方などをサポートすることが重要であることがわかった。

運営の工夫

先付けリーシングで想いを共有するクリエイターを集める

このプロジェクトの成功は、単に箱を作るだけでなくそこを円滑に運営することである。そこで、設計・工事と並行して、プロモーションやリーシング業務は、オーナー側運営者とWeCompassで協働実施した。クラウドファンディング、トークイベント、上記DIYワークショップなど様々なイベントを行い、このプロジェクトを広く知らしめ、入居希望者をあらかじめ集めるようにと努めた。シェアアトリエを共同で利用し快適に働ける環境とするには、家賃や立地というスペックで入居者が物件を選定するのではなく、シェアアトリエという特徴を理解し想いを共有できる入居者を運営者側が選べる状況になるよう注力した。

最後に

WeCompass 第一号案件である「ヨリドコ大正メイキン」では、今後の空き家活用で活かせる工夫を実験的に取り入れ試行した。これを協働で取り組んでいたオーナー及び関係者の方々に心より感謝申し上げたい。また、広報支援を行っていただいた大正区役所、港区役所にも感謝申し上げます。



クラウドファンディング支援者を集めたトークショーの様子



DIYワークショップで古材のやすりがけ



耐震改修見学会の様子

建築士賠償責任 補償制度（けんばい）

平成26年改定

新たな2つの補償

補償内容の拡大の声に応えて誕生した、新しい「けんばい」

これまでの「けんばい」では、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」のない場合には、原則として補償されませんでした。例えば、構造計算ミスにより建築物が建築基準法に達していなかった場合に、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」が発生していなければ保険の対象外でした。

平成26年4月より、「法令基準未達補償」および「構造基準未達補償」の2つの補償を追加し、「滅失・破損」が発生しない場合でも一定の基準を満たさなかったために生じる損害に対応できるように改定することに致しました。

改定のイメージ

起 因 設計・監理業務に 賠償責任	滅失・破損 あり		↑ 従来の けんばい ↓	↑ 本年度の 標準セットプラン ↓
		建築設備が著しく機能を発揮できない場合の補償 (給排水設備、電気設備、空調設備、住宅の遮音性能)		
	滅失・破損 なし	法令基準未達補償 New ※補償対象外とすることも可能です。		
		構造基準未達補償 New		オプション

新たに追加された2つの補償

● 法令基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「所定の建築基準関連法令における基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

● 構造基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「建築基準法第20条1、2、3号建築物の構造基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

※建築士賠償責任補償制度（けんばい）の改定についてご紹介したものです。保険の内容は建築士賠償責任補償制度のパンフレットをご覧ください。

公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館 5階 TEL:03-3456-3273 FAX:03-3456-2067

<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

設計・監理リスクに備えた
建築士会会員のための補償制度

ユーザー対象の設計相談
住宅の設計者問い合わせ

に対応する

登録者募集

(公社)大阪府建築士会 社会貢献委員会 分科会 “住宅を設計する仲間達”

登録者の個人ページ・・・専用のホームページ内に作成可
建築士リスト・・・数カ所の機関に配架し、広報活動を展開
設計相談・設計例展示・・・大阪市立住まい情報センター等

専用ホームページ www.jutaku-nakama.com/
登録・問合せは (公社)大阪府建築士会 立間まで
06-6947-1961 tatsuma@aba-osakafu.or.jp

住宅を設計する仲間達 建築士 リスト 2016-17

家づくりの

『住宅
大阪府
が得意な建

あなたにピッタリ
お問い合わせく

住宅を設計する仲間達
JUTAKU NAKAMA

トップページ

住宅を設計する仲間達とは

建築士に任せるメリット

具体的な流れ

まんが ～家作りストーリー～

土地の選び方

住宅ローンについて

建築士を探す

建築士に任せるメリットは何?

お知らせ

パネル展示&セミナー@住まい
3月5日

「建築家とつくる」

パネル展示

「建築家とつくる」

パネル展示&セミ

ホームページの
抜粋版です

家づくりは、頼

「住宅を設計する仲間達」は、住宅を設

けるプロ（建築士 建築設計事務所）

の集まりです。3,000人が在籍する公益

社団法人大阪府建築士会は、住宅一

社団志士大阪府建築士の職能に対する建

設士の向上と建築士を目的に、平成8年に「住宅

設計士会」を設立しました。

に対して、たくさんの想いをお持ちの方こそ 歓迎します。自然と住まいがやさしく調和することを心がけています。風や光に季節を感じ、家族の一人ひとりにとって心地よく癒される住まいを“粋でおしゃれに”デザインさせていただきます。吟味した杉で体がよるこぶ空気をつくり、子どもから大人まで 脳を元気に健康で安全で安心して暮らせる家を丁寧につくらせて頂きます。

自然と住まいがやさしく調和することを心がけています。風や光に季節を感じ、家族の一人ひとりにとって心地よく癒される住まいを“粋でおしゃれに”デザインさせていただきます。吟味した杉で体がよるこぶ空気をつくり、子どもから大人まで 脳を元気に健康で安全で安心して暮らせる家を丁寧につくらせて頂きます。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十一月十五日（水）十六時～十八時
場所 本会会議室

出席 理事三名 監事一名

（1）一〇月の当期経常増減額は、文化庁からヘリテージホームページ等作成委託事業助成金の前払収入の關係で収入が増加しており、収入一六、六一四、二〇一円、支出一、五七三、五〇五円、差引五、〇四〇、六九六円で、本年度累計の収支差引は二八、五六四、七六九円を報告して承認されました。

（2）本会のインスペクション活動について、建築士会主催の住宅状況調査技術者講習はこれまで七六六名の受講で収入増となっており、建築士のインスペクションへの関心が高い。

平成三〇年四月施行の改正宅地建物取引業法では、既存住宅のインスペクション結果を用いて瑕疵補償責任保険に加入することが可能となり、本会活動も国の動きに合わせることで、次の三案について理事会に諮りました。

①本会が実施したインスペクション結果を活用して瑕疵保険の付保が可能となるよう、住宅瑕疵担保責任保険法人に保険検査機関として登録する。

②保険検査機関登録する際の条件として本会の建築士事務所登録が必要であるため、大阪府に建築士事務所登録を行う。

③本会の建築士事務所登録に当たり、建築士事務所としての活動の方針を定め、公益社団法人として適切な活動を行うことを明記した活動規程を設ける。

一・二年度理事会ではこの三案の主旨説明にとども、今後、各委員会の意見を集約し、一・二年度理事会で再議することとしました。

建築相談室から二十

設備に関する電話相談②

文 橋本頼幸

相談者の中にも様々な相談機関に聞いてまわったり、インターネットで調べたりし、知識や情報をたくさん持つて方向性を失っている方が時々おられます。一見無責任ですが、「解決をあきらめるのも一つの「解決方法」だ」と思うことがあります。

重要事項説明書の記載は

新築マンションの最上階を購入した相談者からの相談。最初エレベーター横の住戸を手続きしたが、エレベーターの音や振動が問題になる可能性を感じ、別のルーフバルコニーのある部屋に交換してもらった。部屋交換に伴い、重要事項説明をやり直すことになったが、二回目だったのでよく理解することなく契約し入居した。入居後、通気管からの臭いが部屋の中まで入ってきて困るため、分譲主に問い合わせたところ「重要事項説明に記載の上、捺印をもらっているんで責任はない」との回答だった。重要事項説明には「通気口」と書かれているが、「排水通気口」とは書いておらず素人にはどの程度の臭いかわからない。納得がいかない。

技術的な回答は限界がある

相談記録では、出来る限りのアドバイスをしたことが書かれていましたが、十分に納得はされずに、最終的に民間総合調停センターを紹介した、との結論になっていました。この相談も技術的な相談というよりも、手続きのトラブルといえるため本会での対応では限界があり、民間総合調停センターの紹介も一つのアドバイスだったといえます。

設備一級建築士に見てもらいたい

新築二階建て戸建ての建売住宅に入居して

約二年。トイレがよく詰まるため、売り主に伝えるも、当初は使い方が悪いといわれていた。施工業者の調査の結果、外部の排水管の一部が逆勾配になっていることがわかった。施工業者はやり直すと言っているが、不安である。（どこかの相談機関で）設備一級建築士というののがいたい。排水管接続時に工事内容が適切か、ということと、埋め戻した後に勾配が取れているか測量する、という二回の調査をお願いしたい。費用はいくらか？

現地相談費用を値切る

調査内容的には、設備一級建築士でなくても本会の相談員であれば誰でも対応可能であり、業者が直すと言っているのであれば二回も行く必要が無いのではないかとお伝えするも、設備一級建築士でないと納得してもらえず、加えて二回だけ二回あたりの時間はそんなにからないので割引できないか？といわれる始末。設備一級建築士が二回も要望される日時に立ち会うことは非常に難しいため対応できない、たとえ短時間であっても時間を空けて移動時間も含めると二回で六万六千円は変えることができない、と約三〇分かけて説明するも理解は得られませんでした。

現地相談からクレームに

現地相談に回ると、現地相談担当者から改めて連絡をするため、もう一度説得と理解を得られる機会があります。しかし、結局根負けして現地相談に行くことになり、費用を払ってもらえない上に、現地相談員の対応が悪いというクレームを付けられることになりました。なんとも後味の悪い相談となりました。相談者にとつても望む結果ではなかっただろうことを考えると、どこかで断るべきだったと思われれます。

編集後記

荒木公樹

先日、友人の建築家、森本雅史氏からの誘いを受け、彼が設計監理を手がけた最新作を見学した。

最新作は、伊賀上野の城下町に建ち、この地で生まれ育った公認会計士が帰郷、新たに住まいと仕事場を構えるという条件だった。街路側に仕事場を、中庭を介して奥側に住居を配置、周囲との調和のため屋根は瓦葺とし、街路面には檜材の格子を設けていた。

単純明快で優れた住居兼仕事場であったが、私が何よりも感心したのは、この仕事で崩れつつある街路景観を取り戻すきっかけとなる可能性を秘めた点である。伊賀上野の旧来からの町家は建て替えが進み、それらは街路側に駐車場を確保し、建物や街路から後退した計画が多い。旧来の沿道景観が崩れ、その結果まちの個性が失われつつある。街路が人間のためのものではなく、車を主役としているのである。これからは、このような車中心の考え方は見直しが必要である。

森本氏の最新作は、これからのまちにおける建築のあり方の道標となるものだ。建築士が自身の仕事を通して、社会に対して問いかけることはまだまだ多いと気づいた見学であった。

建築人 12

2017

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
委員長	飯田英二		
編集人代表	荒木公樹		
編集人	河合哲夫	北 聖志	
	黒川祐樹	曾我部千鶴美	
	橋本頼幸	丸子勇人	
	牧野隆義	茂籠一之	
事務局	山本茂樹		
印刷	中和印刷紙器株式会社		

LAUFEN



洗面器：SL811434-W-112
水栓：K4745V-13 (eye)

living square

革新的なセラミック素材「サファイアセラミック」を使用することで、強度を保ちながら極めて薄い洗面器の成型が実現しました



パイオニア本社ナレッジセンター 大成建設

企画開発を行う会社のオフィス、厚生施設、宿泊施設などで構成される施設の計画である。複合的な要素をひとつの建物でつなぐため、半屋外の「無用の用」の空間をつくり、それが外装に表出したデザインとした。ランダムにくり貫いた7つの穴が、外部と内部を曖昧につなぎ、建物に深みや個性を与え、曖昧な空間だからこそ自由な発想を喚起し、多様な使い方が生まれることを意図した。内部では吹抜け空間を構成し、見る・見られるの視線が交差し、お互いの存在を感じることで、ひとつ屋根の下で家族のようにつながる建物を目指した。高速道路に面する敷地において、この空間が、音や視線に対する緩衝帯となっている。落ち着いたオフィス空間を成立させるとともに、コミュニケーションを誘発する仕掛けにもなっている。

撮影：株式会社エスエス 第9回建築人賞奨励賞受賞作品



■プロフィール

平井 浩之（ひらい・ひろゆき）
1964年 奈良県生まれ
1988年 京都大学工学部建築学科修了
1988年 大成建設 入社
現在 大成建設 関西支店 設計部長

本家 公日子（ほんや・くみこ）
1977年 大阪府生まれ
2000年 大阪芸術大学芸術学部建築学科修了
2000年 大成建設 入社
現在 大成建設 関西支店 設計部

■建物データ

建築主：株式会社パイオニア
所在地：大阪府東大阪市
用途：事務所
竣工：2016年3月
設計：大成建設株式会社
施工：大成建設株式会社
敷地面積：294.82 m²
建築面積：198.06 m²
延床面積：1,169.68 m²
構造：S造
階高：地上7階